

発行

株式会社 エスクリエイト

名古屋市中区錦一丁目4番16号 日銀前KDビル4階

TEL: 052-222-3600 FAX: 052-222-3699

URL: <http://screate-soft.co.jp/>

担当: コンサルタント 石垣 智博

tomohiro.ishigaki@screate-soft.co.jp

原価計算のポイント

2020年オリンピック・パラリンピックの開催地が東京に決まりました。賛否両論があったようですが、やるからには成功して欲しいですね。

では「成功」の定義とはなにでしょうか？猪瀬直樹知事は「2020年東京大会を開催することで、私たちは「希望」を創り出していきます。未来を担う子供たちのために夢と希望を与え、被災地の復興をさらに加速させていきます。「平和でよりよい世界の実現」を目指し、世界中にオリンピックムーブメントを拡げていきます。アスリートが最高のパフォーマンスを発揮できる環境を用意し、世界中から日本を訪れるお客様に素晴らしいおもてなしを提供したいと思います。」とコメントしております。

今後、「希望」という抽象的なものを具現化し、その「希望」を創り出せたとき成功と言えるのかもしれませんが、ただ、東京周辺に投資が集中し、被災地の復興に十分な資金・工数が施されるのが少し心配ではあります。

オリンピックは世界最大のスポーツの祭典です。それが日本で行われるのは誇らしくあり、楽しみです。

◆原価計算の目的

話はがらりと変わります。最近では原価計算システム導入に関するプロジェクトに携わっておりまして、それに関して少々紙面を割こうと思います。

「製品ごとの損益がわからない」「製造実績集計に時間がかかる」「原価計算をしているが活用できていない」など原価計算にまつわる話を耳にします。

そもそも、原価計算を行う目的とはなになのでしょう？原価計算基準(企業会計審議会)・原価計算(岡本清著)を基に5つ抽出しました。

①決算書作成目的

財務諸表に表示するために必要な原価算出。(制度会計)

②価格決定目的

販売価格、仕入価格などを決定するための原価。(管理会計)

③原価管理目的

原価差異分析によるコスト削減の方策を練るための原価。(管理会計)

④予算編成ならびに予算統制目的

業務的意思決定を行う。各業務の具体的な計画を貨幣的に表示、利益目標を指示し諸活動を調整していく役割。(管理会計)

⑤経営計画設定

経営的意思決定を行うための原価情報を提供。例えば、製品をそのまま生産し続けるのか？大きな設備投資をするのか？など経営構造に係わる原価。(管理会計)

原価管理というと、上記目的の②～③をイメージされると思います。ただ、損益計算書(P/L)・貸借対照表(B/S)に影響してきますので、①の制度会計での原価計算も重要です。

原価計算を見直したい、管理会計を実施したいという気持ちがあってもなかなか手が付けられないことが多いようです。しかし、原価計算の見直しを実施については後で考えるとして、実施したいことと現状の乖離を明確にするだけでも前に進めるのではないかと思います。

◆原価計算のポイント：製造実績の収集

さて、原価計算を実施するうえでの重要なポイントがあります。それは、製造実績の収集です。そもそも、製造実績が収集できないと原価計算ができません。原価計算をやる上での「要」は製造実績だと言えるでしょう。

余談ですが、原価計算に関する書籍は沢山出ています。ことテクニカルな方法(費目別計算、間接費配布、個別原価計算、総合原価計算、標準原価計算・・・)に関しては十分にそれらの書籍で勉強することができます。

ただ、製造実績の収集に関して記された原価計算の書籍はあまり見たことがないです。(私が知らないだけかもしれませんが、書籍があったら教えて下さい。)もしかしたら、それは生産管理等の書籍に譲っているのかもしれません。または、生産形態や企業によって製造実績の取得方法は沢山あるので、書籍にしにくいのかもしれません。

◆まずは目的と製造実績の収集について整理

現状の問題を解決するために、原価計算で何を知りたいのか？何がしたいのか？を明確にします。(目的の①～⑤どれかに当てはまることになるとと思います。)そして、目的に合わせた製造実績を取得できる状態なのか？をチェックし、現状との乖離を明確にします。そうすることで、原価計算改善の筋道が見えてくる可能性があるからです。

本は考える為のサプリメント」(その 30)

今月紹介する本はビジネス本です。本書を手にとったのは、スムーズに組織が仕事のやり方を変えるにはどうしたらいいのか？という疑問を解決するためのヒントになりそうだったからです。

IT 導入時に、旧来のやり方に固執して「導入までたどり着かない」、導入した IT が運用に「定着しない」といった状態を目にしたことがあります。どうしたら上手く導入できるのだろうか？

新しいやり方に対応しようとせず、頑なに今までのやり方をしようとする担当や組織に問題があるのではないかと、そのPJを進める側にも、もっとスムーズに IT 導入できるような手段があったのではないかと自問自答していたときに、本書に出会いました。



「スイッチ『変わらない』を変える方法」

(チップ・ハース&ダン・ハース 著)

◇人間の問題に見えても、実は環境の問題であることが多い。相手の行動を変えるには、その人の環境を変えなければならない。

◇怠け者で頑固だから変わるのがむずかしいというのは、完全に間違っている。変わるのがむずかしいのは、体力を消耗しているからだ。怠けているように見えても、実は疲れきっている場合が多い。

◇抵抗しているように見えても、実は戸惑っている場合が多い。とびきり明確な指示を出しましょう。

◇知識だけで変化を引き起こすのは不十分、感情を芽生えさせましょう。

変革のヒントが多く記載されている書籍だと思います。「これでもか」というくらい実験の結果を基に記載されていますので、納得感があります。また、「クリニック」として事例形式で解説がされており、実践イメージがつかめやすい構成となっています。

本編は結構な量が記載されていますが、要点を整理すると巻末に記載されている量となるので、本編を読んだあとに参照することで、実践しやすいと思います。

日々どうやったら上手く変化に対応できるのだろうか？と考える際に、道しるべとなる書籍だと感じました。早速試してみたいです。

編集後記

10月ですが昼間は暑いですね。ただ朝と夕方は涼しくて体調管理に苦労します。

今月は、原価計算について少しだけ記しました。これからのSC通信では原価計算について少しずつ記そうと思っています。原価計算システム(ソフトウェア)はとても高価であるため中小企業にとって導入がためらわれるのではないかと、思います。高価なシステムを導入しなくても、なるべく少ない投資で、欲しい原価が算出出来る方法がないのか？など探りながら掲載していきたいと思っています。

体調管理が難しい季節です。御自愛ください。(石)

